

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道42号 冷水拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県海南市冷水 至：和歌山県海南市藤白	延長	1.1 km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>一般国道42号は、静岡県浜松市から和歌山県和歌山市に至る延長約530kmの道路であり、紀伊半島沿岸地域の市町村間を結ぶ唯一の幹線道路として、地域の生活道路、通勤交通はもとより物流交通や観光交通を担う道路である。</p> <p>冷水拡幅は、現国道42号の拡幅として計画している和歌山県海南市冷水から和歌山県海南市藤白に至る延長約1.1kmの道路である。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>冷水拡幅は、渋滞緩和、交通事故の減少を図るとともに沿線住民の利便性向上を目的とした道路である。</p>					
全体事業費	49億円	計画交通量	31,000台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

**関係する地方公共団体等の意見**

和歌山県（平成19年3月政府要望）及び「国道42号有田海南間整備促進協議会（会長 有田市長）」から早期整備の要望を受けている。

**事業採択の前提条件**

費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	4.4	総費用：41億円 （事業費：37億円 維持管理費：5億円）	総便益：179億円 （走行時間短縮便益：179億円 走行費用減少便益：0億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.7 (交通量 +10%)	B/C=5.0 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C=4.0 (事業費 +10%)	B/C=4.7 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=4.2 (事業期間 +1年)	B/C=4.4 (事業期間 -1年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		渋滞交差点を緩和する(冷水交差点：現況旅行速度1.3km/h) 【渋滞損失時間の改善】約4.9万人時/年 約1.7万人時/年 【1km(台和)あたり渋滞損失時間】約4.5万人時/年キ口、約0.4万人時/年台キ口(現況) 和歌山県平均：約1.6万人時/年キ口、約0.3万人時/年台キ口 全国平均：約2.0万人時/年キ口、約0.7万人時/年台キ口 【渋滞度曲線】和歌山県内センサス区間の上位2割に位置する 【その他の特徴】主要渋滞ポイントの解消(冷水交差点)		
		事故対策		死傷事故率が高い区間の事故の減少が見込まれる 【死傷事故率】約108.5件/億台キ口(単路部現況) 和歌山県単路部平均：約48.8件/億台キ口 全国単路部平均：約48.7件/億台キ口 【事故率曲線】和歌山県内における区間の上位4割に位置する 【その他の特徴】単路部事故率は、国道42号(30区間)中、上位3割(8位)に位置する		
	歩行空間	-	注目すべき影響はない			
	社会全体への影響	住民生活		【高速自動車国道への利便性向上】 近畿自動車道紀勢線海南ICへのアクセスが向上		
		地域経済		【港湾の利便性向上】 特定重要港湾「和歌山下津港」へのアクセスが向上		
災害		-	注目すべき影響はない			
	環境		【沿道の環境改善】 自動車からのCO2排出量が、現況より約1割の減少が期待される。			
	地域社会		和歌山県有田及び海南生活圏間の連携強化を支援。			
事業実施環境	-	注目すべき環境はない。				

採択の理由

費用便益比が4.4と便益が費用を上回っており、事業選択の前提条件が確認できる。  
 また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間及び事業実施による効果はともに大きく、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。  
 以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。